



大手通坂之上町地区再開発事業

米百俵プレイスから 始まる新たな未来

(仮称)

連載

そのエ 産学連携

かつて先人は未来を見据え、長岡のまちの礎を築きました。そして今も同じ志を持って活躍する人がいます。次代を担う若者たちにその想いを伝え、未来へとつなぐ「米百俵プレイス(仮称)」への期待の声と魅力を紹介します。
岡中心市街地整備室 ☎39・2807

世界が認めた 「乾電池王」

— 産学連携の“ものづくり”の先駆者 —



や い さきぞう
屋井 先蔵

文久3(1863)年～昭和2(1927)年

世界初の乾電池を発明。近年、その世界的な功績が評価され、米国電気電子学会から表彰。

屋井先蔵は、国漢学校に通ったのち、独学で機械発明の道を目指した努力の人。
東京職工学校(現・東京工業大学)の受験に時計の遅れで失敗したことで奮起し、液体電池を使った正確な時間の電気時計を創案しました。
次に液体電池の改良に着手。東京物理学校(現・東京理科大学)の学者と研究を重ね、乾電池を発明しました。
世界の注目を集めたのはシカゴ万博。帝国大学(現・東京大学)が出品した地震計に屋井乾電池が使われたのです。その後、軍用電池として大成功を収めました。
現代になると、上村清五郎(かみむらせいごろう)が国産雪上自動車、今井与三郎(いまいよさぶろう)が雪上車が消費パイプを考案。日本や世界の産業の発展に長岡の先人たちが貢献したのです。

企業と学生の連携が新たな発想を生む

長岡には、「凶面一つあればなんでも作れる」といわれるほど高い技術を持った多種多様な企業がそろっています。製造のあらゆる段階を担える企業が集結し、連鎖して、ものづくりの生態系ができています。
また、大学や高専、工業高校との連携で、ものづくりの可能性は広がっています。学生アイデアと企業の技術力が融合して、これまでにないモノができていくのが本当に面白いですね。



NPO法人
長岡産業活性化協会NAZE
会長
大井 尚敏(なおとし)さん

平成17年の協会設立時から副会長を務め、今年4月に会長就任。会員企業80社と共に、長岡のものづくりの価値向上に取り組む。機械加工・組立業の(株)オオイ代表取締役。

今、ロボコンの世界大会への挑戦やアフリカの開発課題の解決に学生と共に取り組み、技術的な支援を行っています。
米百俵プレイスは、まさに学生も企業もアクセスしやすいのが大きなメリット。さまざまな業種や世代が集まり、最新機器を使うことで、さらに新しい発想が生まれるでしょう。米百俵プレイスが、「長岡版イノベーション」の実践の場になってくれることを期待しています。



アイデアをカタチにできる
挑戦の場所



4大学1高専や企業の多様な人材が交流する場を設け、ビジネス支援やマッチングにより新たな発想を創出します。3Dプリンターやレーザーカッターのある「ファブラボ」では、誰でも利用できるものづくりの場を提供します。



▲NaDeC BASEで行われた高専生とものづくり企業の課題解決授業(昨年10月)

